

## 学校評価公表シート(自己評価)

### 1. 教育目標

園児一人ひとりがそれぞれの能力に合わせて、自分の力でのびてゆけるよう、知育・体育の両面から温かく  
支え、見守ってゆく個人別、自律教育をめざす

### 2. 年間目標

- 自律心を育てる
- 自己発揮ができる
- 自己肯定感を育む
- 意欲的に友達と協力する心を育てる
- 自発的な探究心を育てる
- 社会的規範を身に付ける
- 豊かな感性を育む

### 3. 本年度の重点目標

- 自律教育の再確認
- 感染対策を講じながら安全な保育を行う
- 預かり保育の充実

### 4. 評価項目と取り組み状況

評価項目	取り組み状況
自律教育への理解を深める	「真剣にする時・思い切り楽しむ時」などの場面の切り替えができるためにはどのような保育をすればいいのかの検討を重ねた。 また、全学年共通のチェックリストを作成し、躰面や、安全面、子どもへ意識付けしたい内容を定期的に確認できるようにした。
感染対策を取りながらの保育の検討	正しく恐れ、対策を講じることを心掛け、子ども達にも負担にならないような保育内容を検討した。密にはならず、しかしその中でも協調性と協働性を育むことを日々の保育や行事では大切にしてきた。
預かり保育の充実	預かり保育の利用者が増加傾向にあり、保育室を増室して対応した。 預かり保育担当者の人員も増やし対応しているが、長期休業中も含めまだ足りないの で、今後の課題として取り組む必要がある。

## 5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度はバスの安全管理面において大きな意識改革をすることになった。「大丈夫だろう」という気の緩みが、子ども達の安全と保護者からの信頼を揺るがす事態になることを痛感した。年度途中からICTを活用した安全管理の運用を取り入れ、今後は【人と仕組み】の両方をしっかりと機能させ、尚且つ「目配り・気配り・心配り」をもって「何も無いのが当たり前」が繰り返されるように、全職員が意識を高く持って取り組んでいきたい。

保護者アンケートからは、子ども達の目まぐるしい成長に感動と感謝の言葉が多かった。保護者が園での子ども達の様子を見る機会が少なくなったが、コロナ禍でも開催した行事や日々の保育を通じて子ども達の成長を感じてもらえたのは、園としても励みになった。コロナが落ち着いてきたので、今後は行事を再開してほしいという要望もあり、今後の行事については子ども達の実情を鑑みながら精査していく必要があると感じている。

## 6. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自己発揮ができる * 継続課題	個人が持っている素晴らしさを存分に発揮できるように、一人ひとりを認める保育に力を入れる。
自己表現力 * 継続課題	『自分の気持ちや考えを、自分の言葉で相手に伝えられる子どもに』を目標に、子ども達の気持ちに丁寧寄り添う。 また、相手の話を聴ける姿勢が身につくように指導していく。
自律教育の再確認	「今どうする時なのか」を子ども自身が考え、行動に移せるように、保育者が一方的に指示を出すのではなく、問いかける保育を意識する。また、子ども達同士で話合う機会を多く持ち、子ども達が主体的に取り組めるよう、保育者の立ち位置を考える
安全・防災・防犯管理の強化	不測の事態を想定した話し合いをし、安全管理のマニュアルの見直しを行い、訓練を実施する。また、全教職員に周知し、徹底する。
預かり保育の充実	近年利用増加傾向にある【ホームクラス】を担当する教員の人員を増やす。

## 7. 学校関係者評価

- ・ のびてゆく幼稚園の園児の気持ちの切り替え力が素晴らしい。楽しい時は楽しむ、静かに聞く時は静かに聞く、という「今どうする時なのか」の判断力が育っていると感じる。
- ・ 礼儀正しい印象を受ける。負けず嫌いで、根気よく出来るまで！という意識の高い子が多いと感じる。
- ・ 特別支援が必要な園児にも繰り返し繰り返し、子どもに合わせた関わりをすることで、「やればできる」を体感し、自信がついて、主体的な生活を過ごしているという体験談を聞くことができた。
- ・ 各々の子どもにとって自身が持てることを見つけてあげることが大人の役割だと感じている。
- ・ 外部の人からの刺激は子どもにもいい影響があるので、地域の力や関係者の力も活用することも検討されてみてはどうか。